

特別支援教育担当ステップアップ研修講座Ⅰ(前期)

東山地域交流センター
(R5.6.5)

県南教育事務所では、「支援を必要とする児童生徒一人一人に対する教育的ニーズにきめ細かく応える支援体制を整備し、個々の力を伸ばしていく」ことを目標として、教育的ニーズに応じた指導・支援体制の充実のため、今年度初めて特別支援教育を担当する先生方を対象に研修会を実施しました。

初めに平泉町立平泉小学校の「知的障がい学級」と「自閉症・情緒障がい学級」の授業をVTRで視聴しました。視聴を通して、一人一人の実態に応じた支援の方法や教材・教具の工夫、具体的な言葉かけなど、授業づくりで大切なことについて学ぶことができました。グループ協議では担当の障がい種別に分かれ、先生方の悩みについて支援学校等の先生方から助言をいただき、明日からの指導に生かせる様々な支援方法について理解を深めることができました。



【単元名「作戦会議をしよう」(生活単元)
(自・情)

宿泊学習や校外学習に向けて、不安なことを共有し、互いにその対処について考える授業。



【単元名「春のクイズ大会をしよう」(国語)
(知的)

クイズ大会を通して、「話すこと・聞くこと」の力を高めていく授業。

【授業の感想(研修者より)】

- 他学年をまたいだ学級で、1つの目標に向かっていく授業の風景がとても素敵で、私もやってみてみたいと思いました。
- みんなが一斉に同じことを考えたり活動したりしているが、それぞれの目標が違っているので、個のペースでステップアップすることができ、お互いが良い学びになっていました。
- 常に先生が穏やかに進めている様子が印象的でした。

講義「障がいの基本的理解と『個別の教育支援計画』の活用について」(オンデマンド)

(県南教育事務所 伊藤 奏子 特別支援教育エリアコーディネーター)

- 褒める機会を増やし、自信をつけさせることが大切。そのためにはリフレーミングが有効である。
- 「障がいを『もつ』」という考え方から「障がいが『ある』」という考え方へ。その人と周りの環境の間に障がいがあるという考え方が大切である。
- 指導内容を決定する際には、個別の指導計画シートを活用し、各教科等の目標を明確にすることが重要である。
- 「個別の教育支援計画」は、関係機関(教育・医療・福祉・労働)等が連携して一人一人のニーズに応じた支援を、幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して行うことを目的としている。個別の指導計画の内容に引き継ぎシート(フェイスシート)を含めたものを個別の教育支援計画とすることができる。

【よりよい特別支援教育のためのポイント】(協議における支援学校の先生方の助言から)

- 障がい名は支援を考える上で手がかりとなるが、障がい名よりも実際の子どもの様子を正しく把握すること。
- 児童生徒の表出されている部分だけを見ずに、なぜそのようなことをするのかいろいろ想像して考えてみること。
- 各校の特別支援コーディネーターを中心に、組織的に取り組んでいくこと。(個別の指導計画の作成や保護者との連携なども、担任任せにしないこと)